

麒麟の出自

1. 靈獸としての麒麟

動物の麒麟は別にして、現在麒麟はアイドルのように成っている。しかし、古く漢代の礼記に「仁のある政治をする為政者が現れると降り立つ聖なる獣」とされる。中国では歴代の皇帝陵の参道に麒麟像がみられる。



図8) 江蘇省丹陽市三城巷の梁・武帝修陵の麒麟像
…『図録 中国南朝陵墓の石造物 南朝石

(写真は北進一氏ブログ「麒麟・その聖なる獣」より)

埋

葬者が仁の政治をしたことを表そうとしている。日本においても、徳川家康は麒麟を信奉し、彼を祭った日光東照宮には本殿欄間などに立派な麒麟像の彫刻が彫られている。

日光東照宮陽明門の麒麟(栃木 1636年)



この麒麟像は陽明門を飾っているもの。(写真は雄峯閣ブログ「装飾彫刻のみかた」より)

2. 神としての麒麟



上図はある青銅器のトウテツ文である。
中央に鼻、その横に目、目から左右に胴が伸びる。左の胴は一部だが、すぐ下に獣の足が見える。図の右に伸びる胴の右下に脚の全体。脚から羽が伸びる。目の上からアーチ型の角が描かれている。

胴から右上には太い尾が伸びる。角と太い尾、羽を有する獣脚からこれは麒麟の像とみられる。トウテツ文の麒麟像のものは非常に少ない。

トウテツ文は殷の作品が多く残されている。それらは脚が3前1跡に彫られている。明らかに鳥である。殷の祖先については、史記・殷本紀に玄鳥と関連するという記述がある。玄をその意味の[黒い]から、燕であるとする解釈があるが、[黒い]は暗い天の意味で神を示していると考えられる。

さて、この青銅器の肩の所に麒麟に関する文が刻まれている。文体は漢文ではなく、日本

語のように主語、目的語、述語の順に成っている。甲骨文字・漢字の他に絵文字風文字が用いられている。



これの解読文；「去き来る年の境を過ぎ、ここに一月朔日来る。慎んで祈り且つ祀る。世の河川が満つる月、人々は農作業に忙しく、粟の種を畑に播いて耕作をする。そしてその実りを祈る。三つ星の現れる月、飛びて世に鳳来る。舞いて歌う。人々の月、北斗を干して拝む。農作業から解放され、すでに世を治める麒麟が高く空に凜っている。それを仰ぎ祭りをして祈る。」

この文から麒麟の出自は年末の星座であり、麒麟は祈りの対象としての存在であることが分かる。そして、鳳凰は三つ星を伴ったオリオン座に関係しているとみられる。また、麒麟は中国語で麒麟と書くが、発音は qi (2声) lin (2声) で祈琳とも書ける。祈は祈るだが、琳は玉の集まりで、星々の集まった星座の意味にもなる。麒麟という文字はこの祈琳を神の星座を示すために作り替えた言語ともみられる。

3. 様々な麒麟の姿

麒麟は神ながら、人々に慕われていたようで、様々な姿で現れる。

古くは紅山文化のものと伝わる人型の麒麟



また同じく紅山文化のものと伝わる獅子型麒麟。



さらに馬型の麒麟

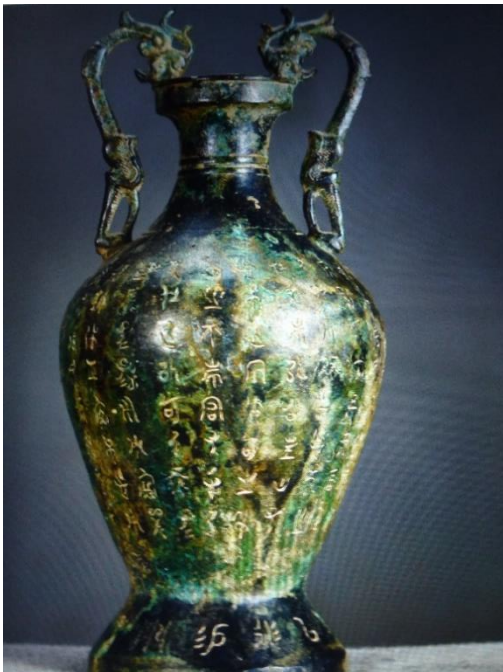


此の香合は数cmの小さい物。山の文字の上に麒麟を描く手法は、中国戦国時代の曾侯乙墓で見つかった、漆塗で仕上げた衣装ケースの天文図にも用いられている。



鹿型のキリ

ン (写真はヤフーオークション出品者のもの)



さらに龍型のキリン



(写真はヤフーオークション出品者のもの) 龍に見えるが、角は一本で、麒麟に祈る文があり麒麟である。



この蓋物は図の横の長さが 20 c m程で、鳳凰と龍も描かれている

さらに七宝の香合に花型の麒麟を彩った珍しい物もある。



先の鹿型香炉に見られる様に青銅器などに、上に麒麟を配し、左右に鳳凰、下に龍（この香炉では、龍は右の人物が蛇の様な長い体の動物を巻き付けたように表している）を配する物をしばしば目にする。前頁写真の香合では中央左右に鳳凰を描き、下に続けて小さい龍を描いている。

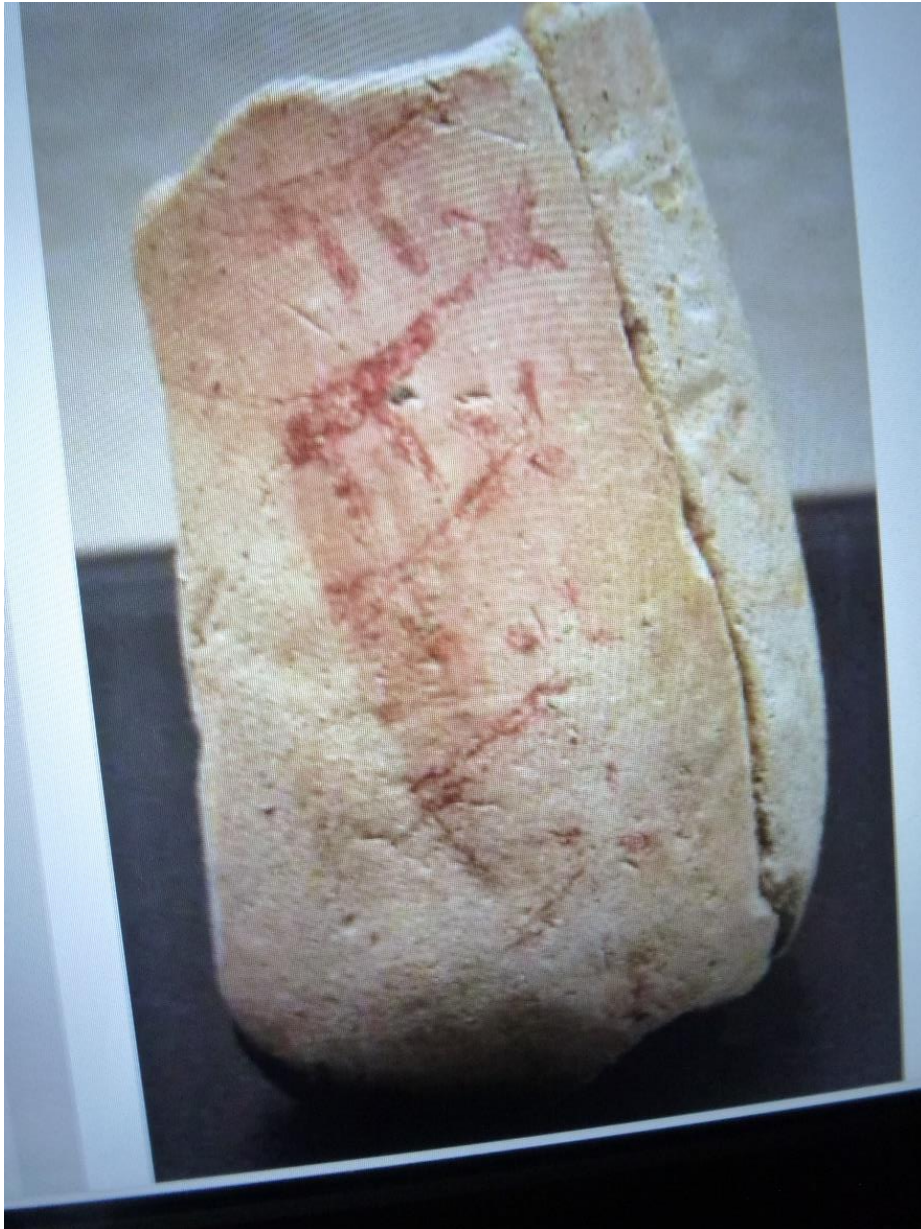
4. 日本に存在したとみられる麒麟神の信仰

次頁八戸市の縄文住居跡遺跡で見つかった人型合掌土偶は、住居の北に祀られていた所や、乳房から女神かもしれない。頭の形から麒麟がモデルと見られる。三



(写真は八戸市 2020 年 1 月 7 日ブログより)。

愛知県稲沢市の弥生時代の一色青海遺跡で見つかった、赤ベンガラで書かれた鹿の絵は角が頭の後ろに一本の姿に見える（特に上から2頭目）。



（写真はブログ「着色された鹿の絵」時事通信 goo より）

数頭の鹿のようだが、描かれた陶器は祭祀用とみられ、赤は屢々神を描くのに用いられるので、これもキリンであろう。



上の写真の社は滋賀県近江八幡市水葦の五社神社である。本殿欄間に優れた彫刻がのこされていて、写真が良くなく分かりにくいですが、上段の中央に麒麟が角を一本有し、振り向いた姿をして彫られている。下には龍の彫り物を従えているので、神として祀られているのが分かる。この神社は創建年代が不明らしいが、記紀以前の存在とみられる命を、主神として祀っている。

また、奈良県明日香村の飛鳥坐神社にも欄間に彫られた麒麟像がある。この麒麟像は神社のブログで見ると、江戸時代の様式のようなのだが、麒麟の信仰が古くに存在し、継続した事が推測される。

2024年10月13日 戸井敏敦（83才翁）